

都が国際医療貢献

災害地にチーム派遣計画

1994年目標

「国際貢献」論議が高まる中、東京都は海外で起きた災害地に独自の医療チームを派遣する国際救援システムの創設に乗り出した。二十二日までに、都の新年度予算に調査費約五百万円を計上、一九九四年の実現

を目指す。公的機関の外国への医療団派遣は現在、国際協力事業団(JICA)だけ。自治体が国際医療チームを結成するのは初めてで、政治や軍事に左右されない国際協力として注目される。

計画では、前もって都内の医師、看護婦、検査技師で医療チームを作っておき、大地震や火山噴火、台風などの際に知事の判断で現地に出動する。派遣先としては、当面都と友好都市関係を結んでい

るパリ、モスクワ、北京、ソウル、ジャカルタ、カイロ、ブラジル・サンパウロ州、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州、米ニューヨーク州の九都市を予定。しかし、今後の調査の進展に合わせて他地域へ

の派遣も検討する。都は、今年四月から二年間を同プロジェクトの研究期間に指定。JICAや民間の援助の実態を調査し、派遣の体制、派遣先の受け入れ状況を把握。その後、具体的なシステム作りに取り組む。現在、海外での災害救援には、JICAの「国際緊急援助隊医療チーム」があ

たっている。